

寄贈図書リスト

天文学の20世紀

科学朝日編, 四六判, 240p, 1,300円, 朝日新聞社, 読み物

宇宙物理学

高原文郎, A5判, 173p, 3,400円, 朝倉書店, 教科書

The PHOTOGRAPHIC ATLAS of The STARS

HJP ARNOLD P DOHERTY AND P MOORE, A4判, Institute of Physics PUBLISHING 220p, £19.95

すばるが見た大宇宙

沼澤茂美, A4判, 144p, 3,000円, 人類文化社, 読み物

宇宙をうたう

海部宣男, 新書判, 222p, 700円, 中央公論新社, 読み物

ハッブル 銀河の世界

戎崎俊一, 文庫判, 312p, 700円, 岩波書店, 読み物

最新ハッブル宇宙美術館

中富信夫, 190p, 2,400円, 講談社, 読み物

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで gjjimu@tenmon.or.jp 宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄 Faxでお送り下さい。

育に対する抱負 1000字程度1部, (7) 応募者について照会可能な方2名の氏名, 所属, 連絡先 (E-mailを含む)

8. 応募締め切り: 平成11年12月1日(水)必着

9. (1)(2) 〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学理工学部物理学科主任

小口明秀

TEL: 0471-24-1501 内線 3210

E-mail: oguchi@ph.noda.sut.ac.jp

10. 封筒に「物理学科教員応募書類在中」と朱書し、簡易書留で送付のこと。

人事公募

標準書式: なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

東京理科大学理工学部物理学科 教員公募

1. 助教授または講師 1名
2. 理工学部物理学科
3. 宇宙物理学の理論の分野で素粒子論的な立場から研究を推進している方。学部生・院生の教育および研究指導に熱意をもって取り組む方
5. (1) 2000年4月1日
7. (1) 履歴書 (署名, 捺印, 写真添付) 1部, (2) 研究業績リスト1部, (3) 主要論文の別刷り5編各1部, (4) 現在までの研究概要1000字程度1部, (5) 着任後の研究計画1000字程度1部, (6) 教育経験と着任後の教

国立天文台教官公募

1. 助手1名
2. (1) 電波天文学研究系
(2) 東京都三鷹市大沢又は長野県南佐久郡南牧村野辺山
3. 宇宙電波天文学分野
4. 当該研究系宇宙電波分野では、45m電波望遠鏡、ミリ波干渉計、VSOPなどの既存装置の運用を行いつつ、将来の大型計画としてのLMSA (大型ミリ波サブミリ波干渉計) 計画を推進しています。今回の公募では、LMSAの技術開発を中心に、その計画の実現に意欲的に取り組む若手研究者を求めます。
5. 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書, (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト (査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと) 及び主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)~(2)の概要がわかる書類。

- 8.平成11年12月1日(水)必着
 9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
 国立天文台長 小平桂一
 (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山
 国立天文台電波天文学研究系 中井直正
 TEL: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp
 10. 封筒の表に「宇宙電波天文学助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

国立天文台教官公募

1. 助手1名
 2. (1) 野辺山太陽電波観測所
 (2) 長野県南佐久郡南牧村野辺山
 3. 太陽電波分野
 4. 当該分野では、電波ヘリオグラフを中心とした太陽電波の観測的研究を行いつつ、次期太陽観測衛星(Solar-B)計画推進の一翼も担っています。将来的には、太陽・天体プラズマ研究系(仮称)と宇宙電波分野を中心とする電波部・野辺山電波観測所(仮称)に改組する構想があります。今回の公募では、2000年にピークを迎える太陽極大期に電波ヘリオグラフのデータを中心にして太陽物理学の研究を行うとともに、当該データの共同利用を推進する若手研究者を求めます。過去の太陽電波観測の経験の有無は問わず、広く人材を求めます。
 5. 決定後なるべく早い時期
 6. 大学院修士課程修了またはそれと同等以上
 7. (1) 略歴書, (2) 研究歴(これまでの研究内容の概要を含む), (3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと)及び主要論文別刷, (4) 研究計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に、前記事項(1)~(4)の概要がわかる書類。
 8. 平成11年12月1日(水)必着
 9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1
 国立天文台長 小平桂一
 (2) 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山
 国立天文台電波天文学研究系 中井直正
 TEL: 0267-98-4392 E-mail: nakai@nro.nao.ac.jp
 10. 封筒の表に「太陽電波助手人事応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

山形大学理学部教官公募

1. 助手1名
 2. 物理学科
 3. 高エネルギー天文学・宇宙電磁流体力学・宇宙プラズマ物理学の理論的研究(地球-太陽圏から広く宇宙全体を含む)。独立して研究を推進できる方で、関連する観測的研究とも有機的に結びついて研究を推進できることが望ましい。
 4. 理学部および理工学研究科(博士課程前期・後期)の学生の教育・研究の指導。
 5. (1) 決定後なるべく早い時期
 6. 博士の学位を有していること
 7. (a)履歴書, (b)発表論文リスト(A. 査読のある原著論文, B. 査読なし論文, 総説など, C. 解説などその他参考となる出版物, に分類すること), (c)主要論文別刷(5編以内)(d)これまでの研究概要(A4用紙3ページ以内), (e)研究計画(A4用紙2ページ以内), (f)教育に関する抱負(大学における学生の教育や地域社会への貢献はこれまで以上に大学に求められています。このことに関してどのように貢献したいか具体例を含めて述べてください。)(A4用紙2ページ以内)
 8. 1999年12月10日(金)
 9. (1) 〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
 山形大学理学部物理学科学科長
 井町昌弘
 (2) 問い合わせ先
 井町昌弘
 TEL: 023-628-4559
 E-mail: imachi@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
 10. 応募封筒の表に「物理学科教官応募書類在中」と朱書し、簡易書留にて郵送すること。

宇宙科学研究所教官公募

1. 助教授 1名
 2. (1) 次世代探査機研究センター(宇宙探査センサー分野), (2) 神奈川県相模原市由野台3-1-1 宇宙科学研究所
 3. 大学・他の研究機関・産業界と協調して次世代の科学衛星、探査機に必要な技術の中核となって開発していただける方。専門分野としては飛翔体を使った宇宙放射線計測のための先端的観測センサーの開発。当面は赤外線・サブミリ波検出器の高機能化、高度化に専心していただける方。また、大学共同利用機関である本研究所の職務を理解し、共同利用諸計画の遂行に積極的な役割を果たしていただける方を希望する。
 5. (1) 決定後できるだけ早い着任

7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リストおよび主要論文の別刷り, (4) 研究計画書 (自薦の場合), (5) 他薦の場合, 推薦書 2 通, 自薦の場合本人について意見を述べられる人 2 名の氏名と連絡先
8. 1999 年 12 月 20 日 (月) 必着
9. (1) 〒 229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
(2) 問い合わせ先 同上研究所内
次世代探査機研究センター
センター長 中谷一郎
電話: 042-759-8303
E-mail: nakatani@nsl.isas.ac.jp
もしくは
共通基礎研究系主幹 松本敏雄
電話: 042-759-8163
E-mail: matsumo@astro.isas.ac.jp
10. 封筒の表に「次世代探査機研究センター助教授応募 (推薦) 書類在中」と朱で明記して下さい。
選考は, 宇宙科学研究所運営協議会において行います。応募者に適格者がいない場合には決定を保留することがあります。

宇宙科学研究所教官公募

1. 助手 1 名
2. 衛星応用工学研究系 超遠距離通信部門
3. 衛星応用工学研究系超遠距離通信部門は, 科学衛星探査機との通信, 軌道決定の研究を行うことを目的としていますが, 現在, 電波天文衛星「はるか」を使ったスペース VLBI 観測計画 (VSOP 計画) の中枢の役割と, 科学衛星探査機の軌道決定の役割を果たしています。今回の公募では, 大学共同利用機関である本研究所の職務を理解しながら, 「はるか」による研究活動に積極的に参加するとともに, 将来のスペース VLBI 計画や, 宇宙干渉計画等についてひろく興味をもち, 積極的に参加できる人材を求めます。
5. (1) 決定後出来るだけ早い着任
8. 11 月 30 日 (火) 必着
7. 応募書類 (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト及び主要論文の別刷り, (4) 研究計画 (自薦の場合), (5) 他薦の場合, 推薦書 2 通, 自薦の場合は, 本人について意見を述べられる 2 名の氏名と連絡先
9. (1) 〒 229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1
宇宙科学研究所 庶務課人事係
電話 (代表) 042-759-8010
(2) 同上研究所内
超遠距離通信部門

平林 久

電話: 042-759-8340 FAX: 042-759-8340

10. 封筒の表に「超遠距離通信部門助手応募 (推薦) 書類在中」と朱で明記して下さい。選考は宇宙科学研究所運営協議会において行います。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

国立天文台電波天文学研究系助教授

1. 第 92 巻 3 号
2. 花岡庸一郎
3. 1999 年 10 月 1 日

研究会・集会案内

第 260 回講習会

「第 6 回最先端の研究室めぐり」

【見学先】国立天文台 (三鷹地区)

【主催】: 精密工学会

【企画】: 事業部企画第 4 グループ

【協賛】 (予定): 応用物理学会/計測自動制御学会/砥粒加工学会/日本機械学会/日本天文学会/日本物理学会

【案内】天文学は, 宇宙の諸現象の解明を進めると同時に, 物理学の基礎法則の体系化にも貢献してきました。また近年, 大型装置の導入, 新しい観測手段の開発, 計測技術の高精度化などにもとない, めざましい発展を遂げております。このようなことから, 天文学研究は精密工学的な見地からも大変興味深いものといえるでしょう。また, その発展に対して, 精密工学の果たす役割はますます重要なものになると思われます。そこで今回の研究室めぐりでは, 我が国における天文学研究のセンター的な機関である国立天文台を見学させていただきます。また, ここ三鷹地区では, アインシュタインが存在を予言しておりながら, いまだに捕えられていない重力波を超高精密な巨大レーザー干渉計を用いて検出しようとする

る壮大なプロジェクトが進められています。そこで、同プロジェクトに関する特別講演もしていただきます。本見学会を通じて、天文学と精密工学との関連について認識を深めていただくと同時に、天文学研究の最前線にふれていただければと思います。多数のご参加をお待ちいたしております。

【日時】：平成11年12月17日(金)13時20分～17時30分

【会場】：国立天文台

(東京都三鷹市大沢2-21-1, 電話0422-34-3600)

【コーディネーター】：瀧野日出雄(ニコン)

森重功一(電気通信大学)

【集合・解散】：現地集合、現地解散です。

●JR中央線武蔵境駅南口から：小田急バス狛江営業所または狛江駅行き(約15分)、天文台下車

●京王線調布駅北口から：小田急バス武蔵境駅行き(約15分)または京王バス武蔵小金井駅行き(約15分)、天文台下車

【定員】：50名(先着順で定員になり次第締切ります。)

【参加費】：会員(賛助会員および協賛団体会員を含む)2,000円、非会員3,000円、学生会員 無料

(国立天文台では、参加費、入場料、施設利用料等を徴収して見学会を開催することをしておりません。本参加費は、本見学会実施にあたっての精密工学会の諸経費に充当されます。)

【申込締切】：平成11年12月10日(金)

【申込方法】：任意の用紙に講習会タイトル、会員資格、氏名、所属、連絡先をご記入の上、郵便またはFAXでお送り下さい。

【申込先】：精密工学会

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-9,

九段誠和ビル2F,

電話: 03-5226-5191

FAX: 03-5226-5192

http://www.jspe.or.jp

からも申込みできます。

【その他】：国立天文台に関する詳しい情報は、

http://www.nao.ac.jp をご覧下さい。

京都大学花山天文台創立70周年記念

一般公開・講演会のお知らせ

京都大学花山天文台では、創立70周年を記念して一般公開と講演会を行います。一般公開では、施設の公開・展示陳列と天体観望会を行い、また、ネットワークを經由して飛騨天文台で観測された太陽像をリアルタイムで上映します。講演会では花山天文台の70年の歴史をふりかえるとともに、花山・飛騨天文台で現在行われている最先端の天文学研究を、わかりやすく説明します。お気軽にお越し下さいますよう、ご案内申し上げます。

〈一般公開〉

日時：1999年11月20日(土)14時～20時 および

11月27日(土)15時～20時

場所：京都市山科区北花山大峰町

京都大学大学院理学研究科附属花山天文台

公開施設と内容：花山天文台の主要な観測施設、研究施設などの公開および展示陳列

天体観望会：14時～16時 ザートリウス18cm屈折望遠鏡及び70cmシーロスタット分光望遠鏡による太陽像と分光スペクトル観望。また、ネットワークを用いて飛騨天文台で観測された太陽像をリアルタイムで上映する。

18時～20時 45cm屈折望遠鏡による月・

木星・土星観望(27日は木星・土星のみ)

〈講演会〉

日時：1999年11月27日(土)10時～12時半

会場：京都市左京区吉田河原町15-9

京大会館(電話075-751-8311)

講演：1.「花山天文台と惑星観測」

2.「太陽の素顔」

3.「活動する宇宙」

〈交通機関〉

花山天文台は、地下鉄東西線蹴上駅より徒歩30分、京阪バス九条山停留所より徒歩20分。京大会館は、東山通バス停「京大正門前」より南西へ徒歩10分。河原町通バス停「荒神口」より北東へ徒歩14分

〈問い合わせ先〉

京大花山天文台

電話：075-581-1235

FAX：075-593-9617

ホームページ：

<http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/observatories/Kwasan/Kwasan-j.html>

国立天文台三鷹キャンパス一般公開

メインテーマ：「動き始めたすばる望遠鏡」

日時：1999年11月27日(土)13時～19時

場所：国立天文台三鷹キャンパス内

(東京都三鷹市大沢2-21-1)

主催：国立天文台、東大大学院理学系研究科天文学教育研究センター

共催：総合研究大学院大学

後援：(財)天文学振興財団、(社)日本天文学会

〈公開施設と内容〉

・国立天文台三鷹地区の主要観測施設、実験施設などの公開および展示陳列

・講演会(14時～16時30分 解析研究棟大セミナー室)

「宇宙をさぐる“人類の眼”」

国立天文台台長 小平桂一

「超新星が語る宇宙の運命～宇宙の膨張は加速しているか?!～」

東京大学教授 野本憲一

・天体観望会

口径50cmの社会教育用公開望遠鏡にて、昼間はベガ、夜間は木星や土星を観望します。また、グラウンドにて望遠鏡メーカー・販売店が設置する望遠鏡や双眼鏡での観望もたのしめます。(晴天時のみ)

〈交通〉

1. JR中央線武蔵境駅南口より、小田急バス 狛江駅または狛江営業所行き(15分)

2. 京王線調布駅北口より、小田急バス 武蔵境南口行きまたは京王バス 武蔵小金井駅北口行き(15分)

1, 2いずれも天文台前バス停下車

3. 上記の他に、JR中央線三鷹駅および武蔵小金井駅、小田急線狛江駅からも天文台前バス停留所を通るバスが出ています。

〈注意事項〉

・自家用車、バイクでの来場はお断りします。(構内には一般向け駐車場はありません)

・お子様のご来場には、保護者同伴をお願いします。

・構内には、軽飲食のための食堂があります。

・夜間は防寒対策をしてご来場下さい。

●問い合わせ先：国立天文台

電話：0422-34-3600

FAX：0422-34-3690

●ホームページ：http://www.nao.ac.jp/open-day/

2000年東大国際シンポジウム

「スペースおよび実験室における磁気リコネクション」

主催：東京大学

日時：2000年2月29日(月)～3月4日(金)

場所：東京大学山上会館

内容：本シンポジウムは、近年急速に研究の広がりを見せている磁気リコネクション研究に焦点を絞り、室内プラズマ実験分野から太陽・地球磁気圏・宇宙分野や理論・シミュレーション分野までに至る幅広い研究の進展をレビューし、理解を深めることを目的としています。過去10年間に、磁気リコネクション研究の進展は、YOHKOH, SOHOをはじめとする太陽衛星観測やGEOTAILをはじめとする地球磁気圏観測、さらには多様な理論・シミュレーション研究や新たな室内プラズマ実験によって急速に進展してきました。また、天文学でもASCA, Rosatといった天文衛星観測を通じて、磁気リコネクションのプラズマ加熱等が次第に認識されはじめています。西暦2000年を迎えるこの時期に、国際シンポジウムという形で磁気リコネクション研究の総まとめを行うことは誠に意義深く、多くの方々にご参加いただければ幸いです。

シンポジウム組織委員会：

co-chair

小野 靖 (TS-3/4 室内実験グループ)、柴田一成 (YOHKOH 衛星観測グループ)、寺沢敏夫 (GEOTAIL 衛星観測グループ)

SOC (Scientific Organizing Committee)

D. Biskamp, M. Katsurai, K. Makishima, A. Nishida, T. Sato, E. R. Priest, M. Scholer, R. Stenzel, S. Tsuneta, M. Yamada

LOC (Local Organizing Committee)

M. Hoshino, R. Matsumoto, T. Yokoyama (LOC core), A. Ejiri, T. Itagaki, T. Kosugi, H. Kurokawa, T. Mukai, T. Shimizu, Y. Takase, M. Ugai, Z. Yoshida.

問い合わせ先：〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学高温プラズマ研究センター

小野 靖

fax: 03-5841-6790

Email: mr2000@mr.nro.nao.ac.jp

ホームページアドレス:

http://mr.nro.nao.ac.jp/mr2000/

X線結像光学シンポジウム

X線結像光学は理学と工学あるいは科学と技術の接点に位置し、宇宙科学、生体科学、物質・材料科学、放射光科学、プラズマ・核融合科学、医療技術等の分野における研究の進展に大きな役割を果たしています。本シンポジウムでは、エネルギー（波長）領域40eV-100keV(30-0.01nm)における光学・計測技術とそれによる科学研究及びX線結像光学を支える基盤技術に関する最近の研究成果の発表と将来の展望を議論します。

研究成果の発表を希望される方は、ポスターボードを用意しますのでお申し込みください。多くの方々の参加をお待ちしています。プログラムの詳細は後程お知らせいたします。

期日：平成11年12月15日(水)～16日(木)

場所：名古屋国際会議場 211号室

名古屋市熱田区熱田西町1-1

主催：X線結像光学研究会（代表者 山下広順）、科学研究費特別推進研究（代表者 山下広順）、基盤研究（A）（代表者 青木貞雄、山本正樹、渡辺誠）科学技術振興事業団戦略的基礎研究（代表者 常深博）

〈プログラムの概要〉

宇宙科学：X線観測、X線望遠鏡、分光偏光法、検出器生体科学と医療技術：

X線観察、X線顕微鏡、分光結像法、医用診断

物質科学・材料科学：表面・界面・物質構造解析、

分光・偏光法、コヒーレントX線等

プラズマ科学・核融合科学：

レーザープラズマ、プラズマ診断光学系等

基盤技術：リソグラフ光学系、放射光ビームイン光学系

多層膜、回折格子、マイクロビーム、

X線干渉検出器、鏡面加工、微細加工、評価法等

参加申込先：名古屋大学大学院理学研究科

物理学教室U研 杉本三奈

TEL: 052-789-2921 FAX: 052-789-2919,

E-mail: sugimoto@u.phys.nagoya-u.ac.jp

ポスター発表を希望される方は11月15日(月)までに題名、著者名と連絡先をお知らせ下さい。

参加費：5000円（予稿集を含む）、学生無料

問合せ先：名古屋大学大学院理学研究科物理学教室

山下広順

〒464-8602 名古屋市千種区不老町、

TEL: 052-789-3540, FAX: 052-789-2919

E-mail: yamasita@u.phys.nagoya-u.ac.jp

会務案内

日本天文学会評議員会 議事録

日時：1999年7月17日(土)13時00分～16時00分

場所：国立天文台 講義室

出席者：今井、尾崎、谷口、長谷川、古屋、井上、小山、鈴木、須藤、福江、福島、吉田

出席者12名 欠席者18名うち委任状7名。

他に理事会から庶務理事 大石、柴田、会計理事 立松、紀伊が出席

議事に先立ち、議長に長谷川哲夫氏を、署名人に鈴木尚孝氏、今井 裕氏を選出した。

議事の経過及び結果

1. 前回(1999年3月26日)の評議員会議事録が報告され、承認された。
2. 2000年度日本天文学会事業計画案について大石庶務理事より説明があり、質疑応答の後承認された。これに関連して各種委員会の内規案を評議員会以前に評議員に回覧するなどして十分な議論を行い、2000年7月までに結論を出す方向で作業を行うこととなった。
3. 2000年度日本天文学会収支予算案について立松会計理事より説明があった。2000年度には天文学会事務室の引越しが予定されているのでその費用(約30万円)を計上しておくこと、研究奨励賞および林忠二郎賞の賞金額については理事会が提示した額(それぞれ20万円、30万円)にすること、等を含め全会一致で承認された。なお、各賞を与える人数に関しては議論を継続することとなった。また、学術交流費については応募者が急増していることもあり運営方法を見直さなくてはならないため、収支状況の説明資料を次回評議員会に提出することが求められた。
4. 内地留学奨学金に関する内規の改訂について、理事会案が提出され、その内容を大石庶務理事が説明した。基本的な改訂趣旨は承認され、文言について微修正をすることで改訂内規が成立した。
5. 2001年および2002年の春・秋季年会開催地候補が大石庶務理事より下記のように提示された。
2001年春：千葉大学、2001年秋：西はりま天文台
2002年春：茨城大学、2002年秋：宮崎大学
これに関連して、最近の講演数の増加にどのように対応するか議論が行われたが、明確な結論は出なかった。年会実行委員会や庶務理事が中心となって具体案を検討する。

また、2000年春季年会で開催予定の「ジュニアセッション」の趣旨説明が行われたが、開催にあたっては様々な問題がある、また、資料を提示して説明して欲しいとの指摘があり、10月の評議員会で資料を示すと共に改めて説明することとなった。

6. 1997～1998年度に渡る会費未納者のリストが提示された。これは3月の評議員会からの積み残しであり、3月以降の督促努力の結果未納者は正会員12名、準会員10名に減少した。そしてこれら22名の除名が承認された。なお、除名会員の未納会費は学会の債権として残り、督促を継続することが確認された。

7. その他

(1) 原事務長が2000年12月末に定年になるが、その後任として東條新氏が内定したことが大石庶務理事より報告された。東條氏は2000年度中途から事務室に勤務していただく予定である。

(2) PASJの現状について大石庶務理事より報告があった。機関購読者数は291件にまで回復した。電子版PASJは今年中は無料公開する。今後「なんてん」特集号、及び、「すばる」特集号を組む予定である。これに関連して福江評議員より、「電子版原稿のためのスタイルファイルはUNIX版だけでなくWindows版のものも欲しい。圧縮は必要ない。また、パブリへの意見の窓口を公開して欲しい。」との意見が出された。また福島評議員から、「現在電子版の投稿料を半額にしているがいつまで半額にするのか。」という質問が出された。これに対し紀伊会計理事より、「現在検討中で、2000年1月に原案を提出する。」との回答がなされた。

(3) 「すばる絵葉書」を発行する方針であることが大石庶務理事より報告された。

(4) 古屋評議員より、アメリカ天文学会への参加報告があった。

(5) 鈴木評議員より超巨大計画への参加・調査などを学会として行ってはどうかとの提案があったが、学会よりもむしろ天文学研究連絡会議へ提案するほうが良いとの結論になった。

議長 長谷川哲夫
 署名人 鈴木尚孝
 署名人 今井 裕

日本天文学会理事会 議事録

日時：1999年7月10日(土)11時00分～15時00分

場所：国立天文台 会議室

出席者：尾崎、家、小山、大石、立松、紀伊、吉川、上野、有本、山岡、橋本、牧島

出席者12名 欠席者3名うち委任状3名

議事に先立ち、署名人を選出した

議長：尾崎洋二

署名人：大石雅寿、吉川 真

議事の経過及び結果

1. 前回(1999年3月27日)の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 天文月報に掲載している広告を取りまとめている広告代理店である広和堂が3月末に倒産し、天文学会に未払いの広告費16万2000円が学会の債務となっている。これについては広告収入費の下方修正をすることとし、債務処理については事務長に一任することとした。
3. 学会刊行物に対する科研費として、学術定期刊行物への補助として380万円、二次刊行物への補助として194万円、公開講演会補助金として65万円が認められたことが大石庶務理事より報告された。
4. 学術会議会員、科研費審査候補者の選挙日程について大石庶務理事より報告があった。

選挙管理委員会委員長は国立天文台の川村静児氏である。学術会議会員候補者の選挙は99年7月21日告示、9月20日公示、9月21日より11月7日に立候補者・推薦の受け付け、11月13日より12月12日投票、12月13日開票という手順で進める。

同様に、科研費審査候補者の選挙は、7月1日に理事に投票用紙郵送、投票開始、7月15日投票締め切り、7月16日開票、7月19日に評議員に投票用紙郵送、投票開始、8月7日投票締め切り、8月9日開票、8月20日学術会議へ候補者リストの郵送及び理事長へ結果報告、という手順で進める。推薦人数は、第一段審査員候補8名、第二段審査員候補6名である。なお、科研費審査員名は科研費審査終了後公表可となった。科研費審査員候補の選択にあたっては、第二段候補者を先に決め、その後、第一段候補者を決めるという方針が確認された。また、科学研究費補助金に関して、「所轄機関が文部省から学術振興会に移管されることに伴い、国際学術研究と一般の基盤研究の重複申請が出来なく方針が出されているが、学術会議では、この件について善処を求める運動を展開中である。」との報告が家副理事長(天文学国際共同観測専門委員会委員長)よりあった。

5. 2000年度の学会事業計画案について大石庶務理事より説明があり、原案通り承認された。また、同年度収支予算案について立松会計理事より説明があった。収支予算案は、PASJ電子化キャンペーン等を考慮した案である。未収会費が多いので銀行自動引き落としキャンペーンをするなどの努力をすることが確認された。学術交流費については収入が減少しているので増やす方策、また、学生への旅費補助のあり方について議論があった。早川幸男基金については200万円を目安とするが柔軟に対応する方針が示された。その他の意見交換を行い、収支予算案は原案通り承認された。
6. 内地留学奨学金に関する内規の改定案、入会案内文の改定案、及び、委員会規定に関する内規原案が大石庶務理事より提示された。入会案内文については、原案から入会手続きの「中学生以上を対象とする」という文を削除し、団体会員の入会手続きを追加する。委員会に関する内規原案については各委員会委員長の意見も反映できるよう送付回覧することとした。なお、天体発見賞に関する細則の見直しは天体発見賞選考委員会で進行中であるとの報告もあった。
7. 99年秋季年会の申し込み・準備状況について吉川年会理事より報告があった。申し込み数は500を越えた。このためセッション会場は7つとなる。初の企画セッションは「宇宙ジェット」と「銀河形成」をテーマとして行う。特別講演は村上敏夫氏による「ガンマ線天文学のレビュー」、招待講演は韓国延世大学のナ・イルソン氏による「韓国天文学のレビュー」である。ナ氏には旅費と滞在費を支給する。天文教育フォーラムは「OD問題の現状」がテーマであり、公開講演会は「宇宙観の移り変わり」という題で、宮島和彦氏と池内了氏が講演を行う。
8. 2000年の年会について吉川年会理事より説明があった。2000年春季年会については、牧島理事よりセッション会場として7つ確保する方針、ポスター会場を確保するために苦勞していることが報告された。2000年春季年会で「ジュニアセッション」を開催したいと吉川年会理事より提案があり承認された。2000年秋季年会のポスター会場は非常に広いものが確保できていると橋本理事より報告があった。
9. 大石庶務理事より2001年、2002年の年会開催地ホストが以下のように報告され、承認された。
2001年春 千葉大学、2001年秋 西はりま天文台
2002年春 茨城大学、2002年秋 宮崎大学
10. 新入正会員の名簿が紹介され、55名全員の入会が承認された。
11. PASJの出版・電子化について、有本欧文研究報告理事より説明があった。欧文研究報告の機関購読契約数が291件になったこと、投稿数が大幅に増加していること、電子版PASJのミラーサイトを設置する交渉

をしていること、すばるファーストライト特集およびなんてん特集を組むことを進めていること、が報告された。また、2001年度より機関購読料を2-3割値上げしたいこと、電子版PASJのHTML版に版については参照論文へのリンクを中心とした簡略版にしたいこと、PASJ若手賞を設けたいこと（応募者の掲載料を半額にする）の提案があった。HTML版については図・表を入れるたほうが有益であるとの意見があり、それを踏まえて検討することとなった。PASJ若手賞についてはさらに検討を重ねることとなった。

12. その他

(1) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定された。

理事会 : 1999年10月9日(土)

評議員会 : 1999年10月8日(金)

(2) 大石庶務理事より国立天文台総合情報棟の建設に伴い、現在の学会事務所がすばる解析研究棟1Fのデータアーカイブ室の一角に引越すことが報告された。引越し時期は8月11-12日である。

(3) すばるによって撮影された画像を絵葉書や名刺にし実費配布をすることが報告され、承認された。天文台側は画像提供を了承している。

(4) 会費金額については、会費納入時の身分で決まる額を入金してもらうことが確認された。

議長 尾崎洋二

署名人 吉川 真

署名人 大石雅寿

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規*に基づき、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（2000年度第1期）致します。

1. 援助金総額 年間 200 万円（2000 年度）
2. 援助件数 年間 10 数件程度
3. 募集対象期間 2000 年 1 月 1 日～3 月 31 日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（少なくともコピーの分は A 4 紙に統一すること）

原本 1 部、コピー 5 部。

書類（特にコピーの分）に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください。

- (1) 応募用カバーシート（第 92 巻 4 号 242 頁の応募用紙を A 4 に拡大コピーして使用する）。なお、渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。

渡航費見積金額は航空運賃を記入して下さい（保険料、出入国税等は含めない）。

- (2) 論文リストを含む研究業績
- (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
- (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
- (5) 研究集会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
- (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書、渡航後の場合は領収書のコピーも添付する。
- (8) 関連研究論文の写し（一編）

5. 応募締切：1999 年 12 月 10 日必着

6. 決定時期：1999 年 12 月下旬

7. 応募書類送付先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内
日本天文学会 早川基金募集係

* 早川基金内規（社団法人日本天文学会定款参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として 35 歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。

© 2000 年はこの後、3 月 10 日締め切りで 2000 年 4 月～6 月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

© 援助者には、帰国報告書の提出をお願いします。

国際天文学連合（IAU）新会員候補の募集および非会員のマンチェスター総会出席について

第 24 回国際天文学連合（IAU）総会が、2000 年 8 月 9 日から 8 月 16 日までの 8 日間、マンチェスター大学で開かれます。

日本学術会議の天文学研究連絡委員会は、IAU に対し日本を代表する National Committee としての役割を果たしています。

このマンチェスター総会に関連して、新会員になりたいと希望される方、また非会員で総会出席を希望される方のために、天文学研究連絡委員会では新会員の推薦申し込みおよび非会員への招待状発行に関し、下記のような募集をします。

またマンチェスター総会の際に開かれるシンポジウムも総会の一部ですから、シンポジウムに出席するには総会出席の登録が必要であり、また非会員の場合はこの招待状が必要です。

記

1) IAU 新会員候補の募集

（推薦の申し込み用紙は、下記の天文学研究連絡委員会委員からもらって下さい。）

なお、会員として推薦する者の目安としては、原則として博士の学位を取得後、2 年ないし 3 年以上天文学研究で実績を示した者、および天文学研究と密接に関連した事柄で実質的または独創的な貢献をした者、となっています。

（新会員推薦について、上記の条件はあくまで目安で、この条件のボーダーラインの場合には、天文研連で個々のケースについて検討します。例えば、学位取得後 2 年しか経っていない場合でも、推薦されるケースもあるかと思えます。）

新会員推薦についての申し込みは、下記へ送付して下さい。

提出先：〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台 福島登志夫（天文研連幹事）

* 申し込みの封筒に「IAU 新会員応募」と朱記のこと。

○締め切り：2000 年 2 月 5 日必着

注) なお、天文研連から新会員として推薦する方の名前は、1 月ないしは 2 月に開催予定の天文研連で決める予定です。

2) 非会員の総会出席のための招待状の発行

（推薦申し込み用紙は、同じく下記の天文学研究連絡委員会委員からもらって下さい。）

上記新会員の申し込みをする人も、総会出席のためには招待状が必要です。

大学院生や学位を取って間もない非会員の場合、IAU マンチェスター総会への出席は、この招待状によ